

# 台本「つづらみちその1-みわのアメに召されて-」

## 1. ご挨拶パート

「はい、センセ、今宵（こよい）は珍しいアメを、ご覧に入れます、約束でしたね」（センセは先生の訛った呼び方）

「はい、センセ、申し遅れましたが、ここ『つづらみち』を、いつもごひいきに、ありがとうございます。今回は私（わたくし）、『みわ』がセンセの、お相手いたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。」

「はい、センセ、今宵（こよい）、ご覧に入れまするはアメ、でございます。」

「ただの、アメでは、ございません」

「聴くも、味わうも、すべてがアメ、外国由来のアメ砂漠（さばく）、砂（すな）アメの『月下』（げっか）、でございます。」

「まあるいアメの中に、その砂？を、砂時計のように閉じ込めた、嗜好品（しこうひん）、でございます。」

「普通の製法（せいほう）では、すぐに、中で固まってしまって、オシャカになってしまうのですが、これは中国の、広東（かんどん）、からその技術を、持ち帰りましたポーランド人が、東北の理想的な気候の中で、丹精（たんせい）込めて、作り上げた一品（いっぴん）、でございます。」

「（エヘン、と軽く咳払いをする）口上（こうじょう）は、不要ですか？では早速、閉じ込められたる砂のほど、ぜひとも、耳で、味わってくださいまし。」

「お耳に聴かせますので、私の膝に、頭をさ、お乗せ下さい。」

## 2. 耳音パート

「（「ウン」というようなうなずいた声）では、失礼して…」

（約一分、砂アメの流れる音）

「ひと流れ、しましたか？では、ひっくり返して、もう一回…」

（約一分、砂アメの流れる音）

「はいな、ひと流れ、一分（いっぷん）、でございます。」（「はいな」は「はい」が訛って言っている）

（約一分、砂アメの流れる音）

「ようがす。」（「ようがす」は「いいですよ」という類の意味の古い言葉づかい）

（約一分、砂アメの流れる音）

「はぁいい。」

（約一分、砂アメの流れる音）

「さぁあつと。」

60 (約一分、砂アメの流れる音)

61  
62 「では、反対のお耳も…」

63  
64 (約一分、砂アメの流れる音)

65  
66 「(フッというようなニュアンスの声)」

67  
68 (約一分、砂アメの流れる音)

69  
70 「はいっ。」

71  
72 (約一分、砂アメの流れる音)

73  
74 「セーンセっ」

75  
76 (約一分、砂アメの流れる音)

77  
78 「さらさらさらあ」

79  
80 (約一分、砂アメの流れる音)

81  
82 「もう、よろしいのですね。お楽しみ、いただきましたか」

### 86 3.飴舐めパート

87  
88  
89 「別の『月下』(げっか)、をご用意、いたしました。今度はゆうっくり、たんねんにアメの、『月  
90 下』の奇妙(きみょう)を、味わって、くださいませ。」

91  
92 「では、セーンセ、お口を、開けてください。アーニー。」

93  
94 「味、ですか?…なんの味か、多分、袋に、書いてあると思うんですけど……なんの味か、書いてま  
95 せんね……なんの味か、わかりませんね……」

96  
97 「(再び)アーニー。(フッというようなニュアンスの声)失礼、いたしまーす。」

98  
99  
100 「余計な言葉は、いりませんね。ぜひ、その舌先で、歯の裏側で、感じてください、味わって、く  
101 ださいまし、センセ」

102  
103  
104 「(フッというようなニュアンスの声)大事に味わってくださり、ありがとうございました。」

105  
106 「本日のアメの品(しな)は、以上でございます。…さて、歯を、磨きましょう。口をゆすいで、歯  
107 を磨いて、お口をきれい、にするまでが、アメ舐めで、ございます」

### 109 4.歯磨きパート

110  
111  
112 「では、お口、失礼いたします」

113  
114  
115 「ゴシゴシ、シュッシュ。 ゴシゴシ、シュッシュ」

116  
117 「ゴシゴシ、シュッシュ。 ゴシゴシ、シュッシュ」

118  
119  
120 「はい、お水、です」  
121  
122 「ウン！仕上がりましたね…」  
123  
124 「（フフッというようなニュアンスの声）ものたりませんか？……そうね。でしょうね。そうでしょ  
125 うとも。」  
126  
127 「…『月下』の砂はあ…人の情欲（じょうよく）をお、…掻き立てるものなのでございますよお。」  
128  
129 「愛の欲求にい、むせび泣きそうな顔、し、て、る」  
130  
131 「お耳、砂の毒でえ、ほてってるねえ…」  
132  
133 「どうして、ほ、し、い、の？」  
134  
135 「いいわ。してあげる。」  
136  
137

## 138 5.耳舐めパート

139  
140  
141 「砂糖の砂漠（さばく）の、サソリの甘い毒にい、召（め）されてしまいなさいな」  
142  
143  
144 「あーんー」  
145  
146 「はむっ…。れろお…。ちゅっ…」  
147  
148 「んー、耳、あんまーい（甘い）！」  
149  
150 「じゅるり…。れろれろ…。ちゅっ…。ちゅっ…。はむ…。ちゅっ…。じゅるじゅる…。」  
151  
152 「耳舐めってえ、気持ちいいのよ？」  
153  
154 「はむっ…。はむっ…。じゅる…」  
155  
156 「気持ちいい？」  
157  
158 「はああ…じゅるり…」  
159  
160 「気持ちいいでしょ？」  
161  
162 「じゅるり…。れろっ…」  
163  
164 「気持ちいいのよねえ？」  
165  
166 「れえろお…。はむはむ…。ちゅっ…。じゅるじゅる…。ちゅっ…。れえろお…。ふう…。ずずっ  
167 …、はあむん…。ずずずっ…」  
168  
169 「そおこ」  
170  
171 「ふうむう…。ずずっ…ふうむう…。ずずっ…」  
172  
173 「恥ずかしいくらい」  
174  
175 「れろお…。ずずずっ…はあむん…。ずずずっ…」

176  
177 「充血（じゅうけつ）」  
178  
179 「んむっ…、はあはあ…。はむっ…、じゅるじゅる…。」  
180  
181 「し、て、るう」  
182  
183 「じゅるり…、れろお…、ちゅっ…ちゅっ…。じゅるじゅる…。ちゅっ…、はあむん…。れえろお  
184 …、ふう…、ずずっ…、ずずずっ…じゅるり…、れろお…、ちゅっ…ちゅっ…。じゅるじゅる…。  
185 ちゅっ…、はあむん…。れえろお…、ふう…、ずずっ…、ずずずっ…」  
186  
187 「センセェ？」  
188  
189 「じゅるり…、れろお…。ずずっ…」  
190  
191 「センセェ…」  
192  
193 「はむっ…。じゅるり…、れろれろ…」  
194  
195 「センセェ…！」  
196  
197 「じゅるり…、じゅるり…、じゅるり…、じゅるり……………！」）」  
198  
199  
200 「あっ…」  
201  
202 「出ちゃいましたねえ。毒、出ちゃいましたねええ。ドクン、ドキュンって出てる。」（ド「キュン」  
203 で間違いない）  
204  
205 「では、失礼して。」  
206  
207 「（「じゅるり、れろお」と主人公の体液をすする音）んっ、センセェってしょっぱ（塩っぱい）。  
208 絡みついて、飲み込むのたいへん」  
209  
210 「ん…。ごちそうさまでした。甘味（かんみ）の受けには、ちょうどよい口直しでした！」  
211  
212  
213 「ごめんなさいね。ここまでが、アメの妙味（みょうみ）なので、ございます。お楽しみ、いただけ  
214 ましたか…？」  
215  
216 「（フフッというようなニュアンスの声）ずいぶん、お疲れのご様子。今夜は、このまま、お眠りく  
217 ださい。遠慮、なさらず。私も、ご一緒、いたします。」  
218  
219

## 220 6. 添い寝パート

221  
222 「お布団（ふとん）の中、あたたかい。私とセンセの、体、ひとつだけ」  
223  
224 「聞こえますか。私の心（こころ）の音。私の、体、をめぐる音。私の、中の、音。」  
225  
226 「（フフッというようなニュアンスの声）…ひつじが、1匹。ひつじが、2匹。ひつじが、3匹。ひつ  
227 じが、4匹。ひつじが、5匹。ひつじが、6匹。ひつじが、7匹。ひつじが、8匹。ひつじが、9匹。ひ  
228 つじが、10匹。ひつじが、11匹。ひつじが、12匹。ひつじが、13匹。ひつじが、14匹。ひつじが、  
229 15匹。ひつじが、16匹。ひつじが、17匹。ひつじが、18匹。ひつじが、19匹。ひつじが、20匹。  
230 ひつじが、21匹。ひつじが、22匹。ひつじが、23匹。ひつじが、24匹。ひつじが、25匹。ひつじが、  
231 26匹。ひつじが、27匹。ひつじが、28匹。ひつじが、29匹。ひつじが、30匹。ひつじが、31匹。  
232 ひつじが、32匹。ひつじが、33匹。ひつじが、34匹。ひつじが、35匹。ひつじが、36匹。ひつじが、  
233 37匹。ひつじが、38匹。ひつじが、39匹。ひつじが、40匹。ひつじが、41匹。ひつじが、42匹。



287

288

「私も、このまま、眠るといたしましょう。」

289

290

「またの、ご来店、のほど、お待ち、しております。センス…」

291

292

293

～台本終わり～